資料2

ひきこもりの若者と居場所

NPO法人　リロードの活動を通して

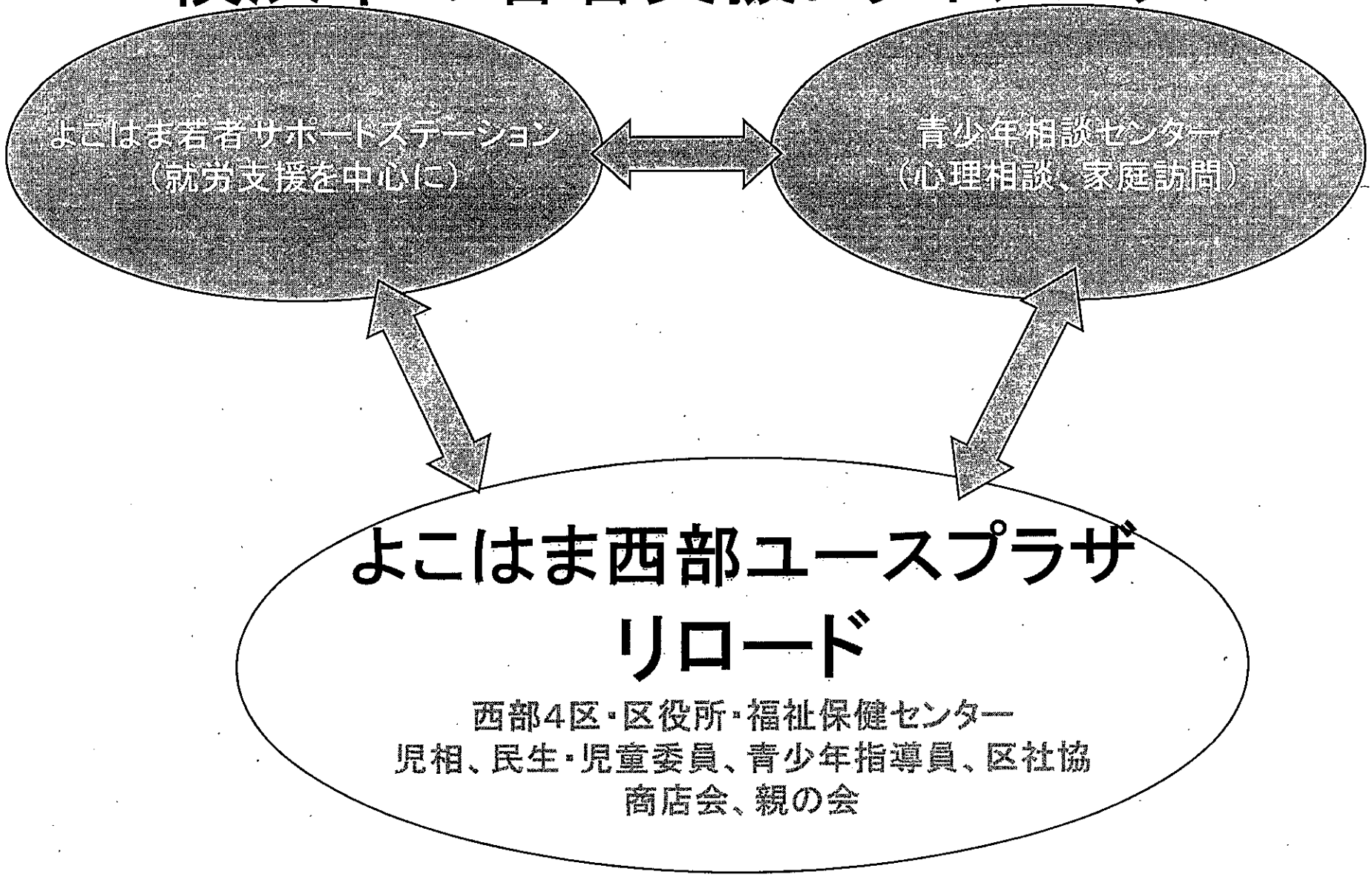
2002（平成14）年
「神奈川ボランタリー基金21」を受託して　神奈川県青少年課との協働事業

- ひきこもった若者は、行政の守備範囲から埒外の存在
- 「ひきこもりとその家族支援」事業
- 全県的な活動範囲
- ボランタリー基金は5年間→「その後は自立運営へ」

2007（H. 19）年
横浜市西部地域ユース・プラザとして地域に根ざした活動の開始

- 2007年10月より、横浜市こども青少年局のひきこもり・無業の若者支援事業を受託
- 横浜市内西部4区のひきこもりの若者とその家族支援（市内最初の取り組み）
- 場所：保土ヶ谷区天王町、商店街の一角

横浜市の若者支援トライアングル



居場所でのプログラム

■さまざまなメニュー　1

・お茶会

パソコン、

環境ボランティア活動

地もの野菜市

さまざまなメニュー　2

- その他

1　スポーツ教室、サッカー、プロ野球観戦

2　ギター教室

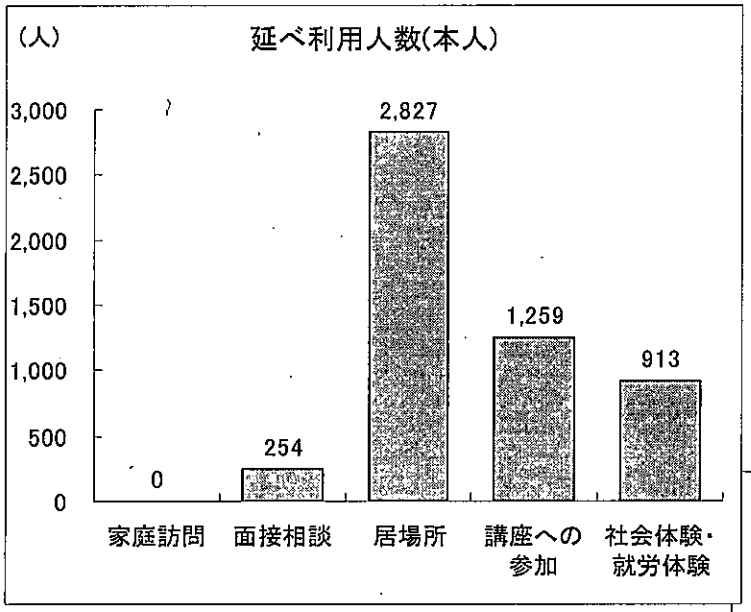
3　手芸教室

4　話合いの会

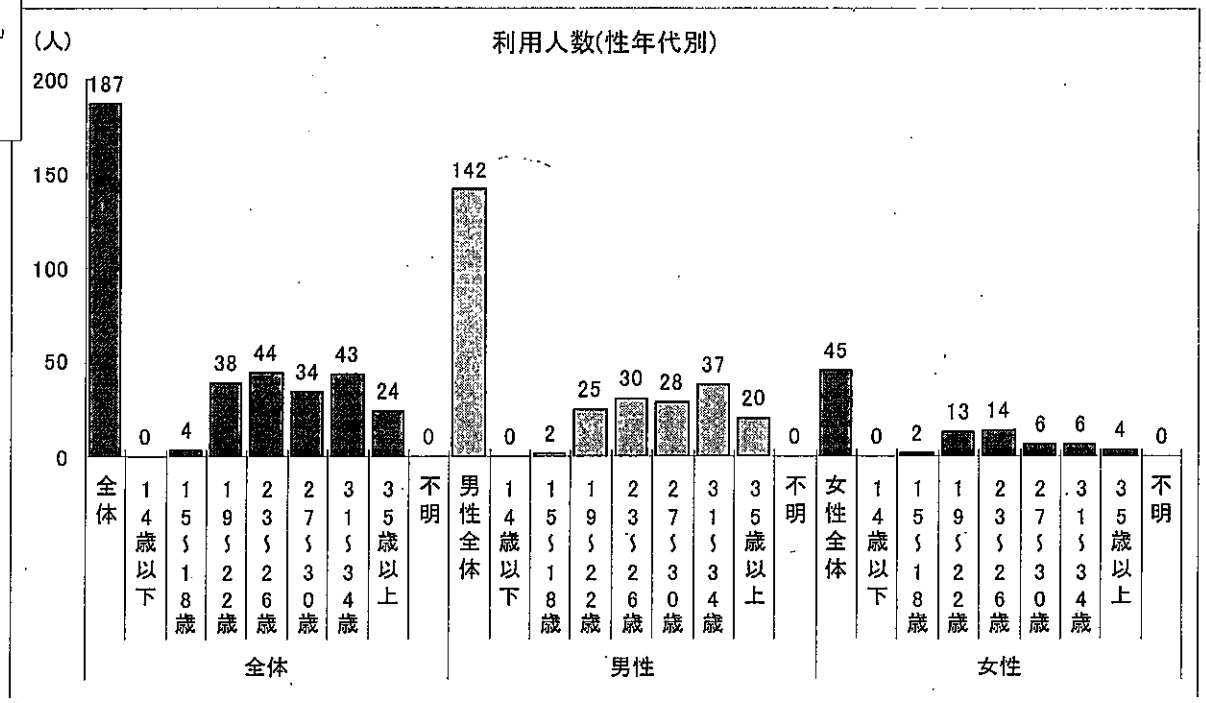
5　よろずや・体験塾（就労支援）

（区内農家、商店街、作業所、福祉作業所、青少年センター食堂、夏祭りetc.）

西部ユースプラザ
利用者数（2009年度）



利用者の内訳



ひきこもり支援を通して見えてきたもの

- ひきこもっていても、家にも居場所はない
- 何とかしたい、このままではいけないと思っている
- 自分への否定的な評価、自信を失って、絶望感の中に
- 自責と他罰感の葛藤
- 受け入れてもらえる他者、仲間の希求

若者が自立していく過程１

１　どこにも居場所のない若者たち(仲間を求めている)

⇩

２　責められることも詮索も受けない、安心していられる場所

⇩

３　何か集まるきっかけが必要
最初はただ食べるだけの集まり
（参加することに全エネルギーを費やす）

若者が自立していく過程２

４　自分だけが不幸な存在ではないことの発見

⇩

５　他者の存在を知り、関係性を築けるということ

⇩

６　ありのままの自分を受け入れられるということ

（共感してもらえる仲間の存在、自分の弱さの受容）

【3～6までの過程は長い時間を必要とする】

若者が自立していく過程３

７　仲間意識と相互刺激
（仲間といっしょの社会体験）

８　仲間の中でその存在が意味づけられること
（居場所の中での役割や貢献）

９　見守る眼差しの存在
（信頼感を持った眼差しと適切な仲介）

ひきこもりの若者たちが抱えている課題

1　対人関係、コミュニケーションへの抵抗感

2　社会的な経験の不足

3　基礎的な学力不足の人も

(1～3は居場所で取り組むべき課題)

4　経済的な問題

（居場所に通ってくる交通費もない人たち）

保土ヶ谷区　生活保護家庭の中学生への学習支援

「若者はばたきサポート事業（はばたき教室）について

事業の目的

保土ヶ谷区保護課

一般世帯と比較して、高校進学率の低い被保護世帯の中学生は、卒業後の進路がアルバイト等不安定になりやすく、世帯全体が低収入のまま保護が長期化する傾向にあります。

そこで、中学生の高校進学を促進することにより、高校卒業後の安定した就労を図り、世代間生活保護からの脱却と自立を目指します。

被保護児童の進路状況（平成20年4月）

	全体	被保護世帯
横浜市	28，876名	549名
うち全日制高校進学者	26，580名（92．0%）	328名（59．7%）
保土ヶ谷区	1，475名	36名
うち全日制高校進学者	1，284名（87．0%）	24名（66．7%）

平成21年度若者はばたきサポート事業実施方法

1，場所　「横浜西部ユースプラザ」
保土ヶ谷区天王町1－30－17

2，日時　平成21年6月より週2回（火曜日・金曜日）……前年度は7月～
午後5時～午後7時　1回2時間

3，内容　高校進学のための主要5教科（国、英、数、社、理）
の学習

4，方法　少人数のグループ学習、横浜国大教育人間科学部・工学部
の学生が学習を指導し、教員経験のあるコーディネーターが取り
まとめを行う。参加中学生を週1回は マンツーマンの指導、もう1
回を自習学習（質問指導は可）とする。

5、定員　15名

平成20年度
「はばたき教室」学習者の高校進学状況

	全日制	定時制	通信制	専門学校	計
男　子	3	1	1	(1)	5
女　子	4	1			5

平成21年度
「はばたき教室」学習者の高校進学状況

	全日制	定時制	通信制	専門学校	計
男　子	3	1	2	(1)	6
女　子	5	2	1	(1)	8

(　)はダブルスクール

参加した生徒のアンケートから

1　参加して変化したことは

・ちょっとわかるようになった。
・高校進学への意識が高まった。
・高校のことを真剣に考えるようになった。
・大学進学への意識ができた。
・わからない問題が解けるようになったし、いままでわからない問題があっても素直に先生に聞けなかったけど、聞けるようになった。
・話し相手が増えた。
・学校以外の友達ができた。
・テストの点数が上がった。
・勉強時間が増えて、やる気が出るようになった。
・学校の授業がわかるようになった。
・勉強ができるようになった。特に数学ができるようになった。

2、「はばたき教室」に参加してよかったこと、不満だったこと

■　よかったこと

・勉強がまえよりかわるようになった。
・数学がわかるようになった。
・大学生の方々といろいろ話せて楽しかった。
・学校の授業でわからなかったところとかを、いままでは放っておいたけど、はばたき教室に行き始めてから、学校よりも聞きやすくてわからないところが減った。
・面接やスピーチで言うこととかを、一緒に考えてもらったりして、前期の時にあまり困らなかった。
・家でやるよりここでやる方が集中してできる。
・点数が上がった。
・授業がわかったこと。
・先生と接しやすかった。
・いろいろな先生と仲良く話したりできてよかった。
・このまま生徒と仲良く話すことができるなら、それを保てればいいと思います。

■　不満だったこと

・前にやったことを忘れて先に進めなかったこと

いくつかの課題

1　進学後の支援(「翼の会」[土曜日])の継続

・学習支援から居場所支援へ

2　生活保護家庭におけるひきこもりの人への支援

（保護課のケースワーカーと民間のひきこもり支援団体のスタッフとの連携による家庭訪問など）

3　スタッフの養成、確保

4　生保の子ども以外の子どもたちとの関係